



ソフトバンクグループ株式会社

2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年2月8日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態

は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用

ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）、SBLA Advisers Corp.（以下「SBLA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」）の リミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」または「SVF1」）と、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」または「SVF2」）を含み、また、SBLA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」）を含みます。

SB ファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因があ

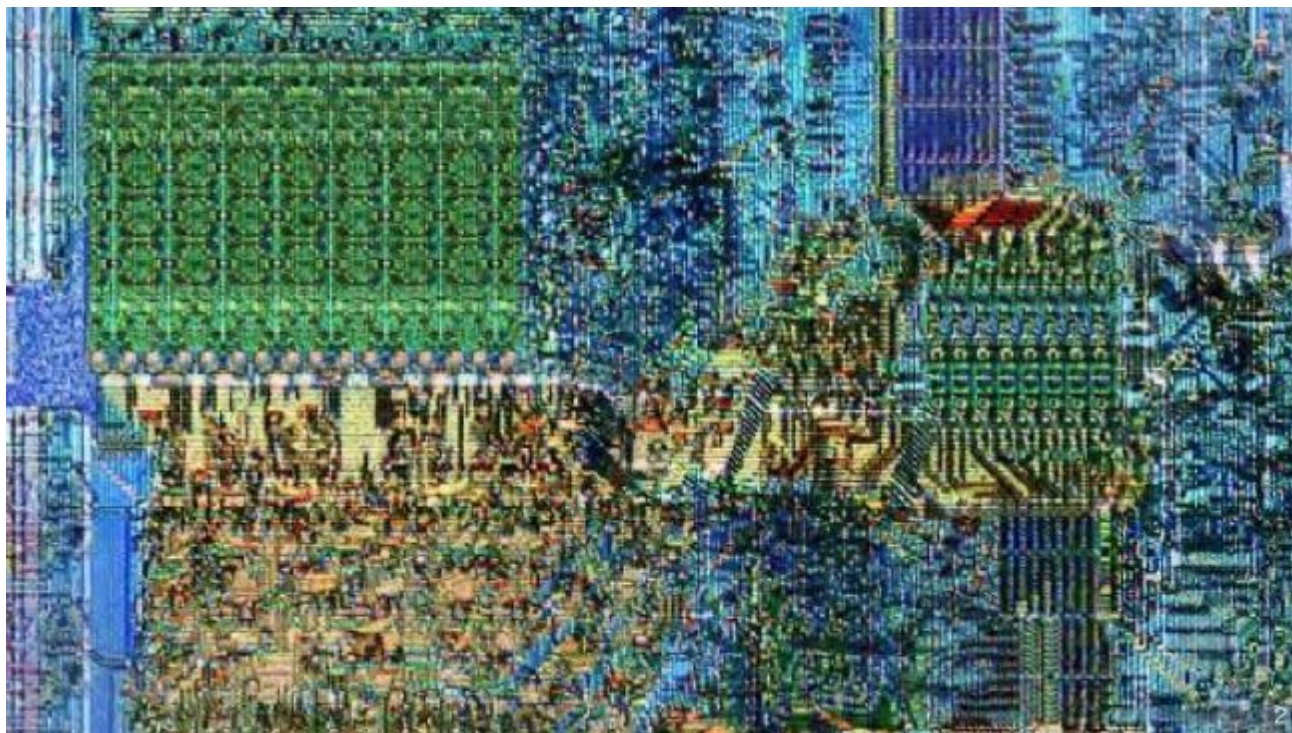
る中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

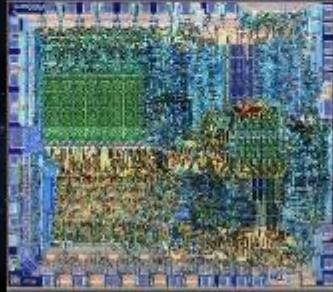
SBGA、SBIA 及び SBLA は、ビジョン・ファンド 2、ビジョン・ファンド 1 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA、SBIA 又は SBLA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独、SBIA 単独又は SBLA 単独で運用されています。

登壇



孫：まず、この写真を見ていただきたいと思います。現代の人なら多くの方がご存じですね。マイクロコンピュータの写真です。私は、この写真に、アメリカの大学生として勉強していた10代のころに出会いました。

ソフトバンクの原点



3

マイクロコンピュータのチップ。ちょうど指先に乗っかるぐらいの小さなチップがコンピュータの役割を果たすことを初めて知ったときに、両手の指先がしびれたことを鮮明に覚えています。大変な感動をして、そこから私の事業家としての人生が始まったと言っても過言ではないかもしれません。マイクロコンピュータに取りつかれました。その後、ソフトバンクを創業しました。

 SoftBank
Group

arm

2016年 買収

資料は、2016年3月31日現在の資料に基づき作成されています。

4

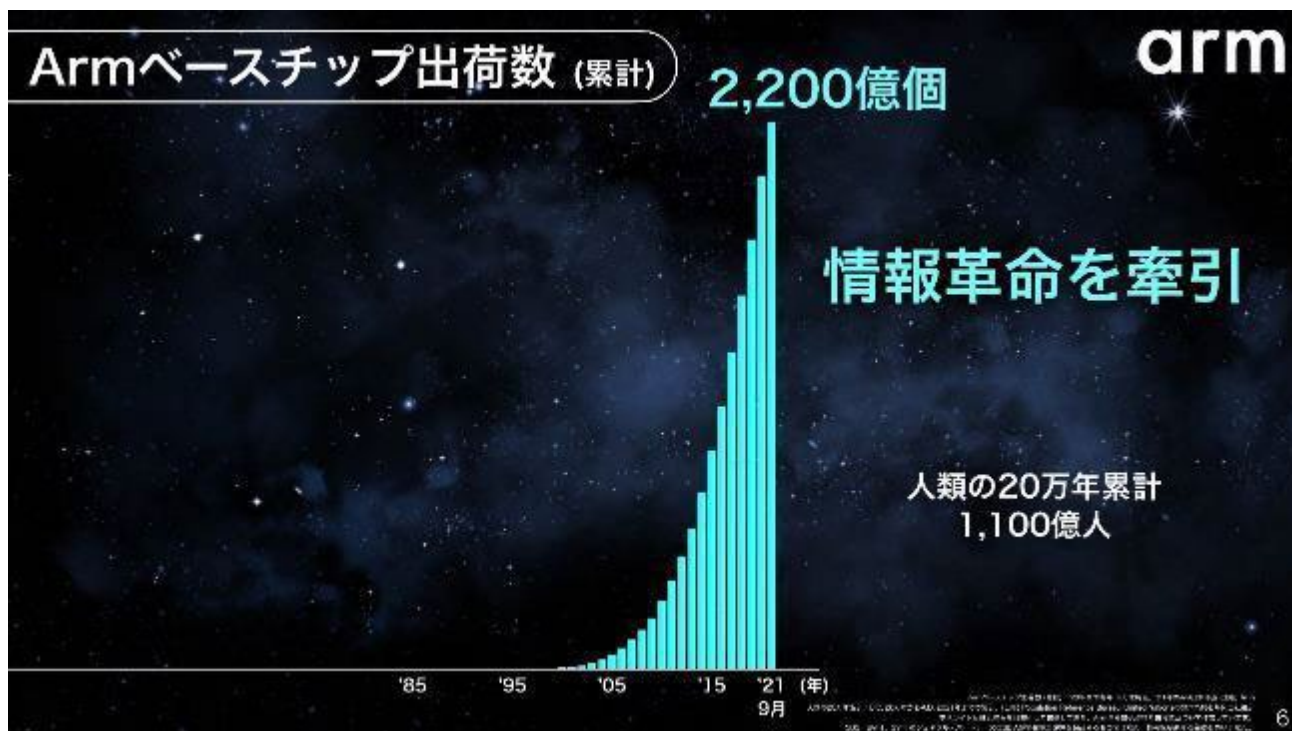
2016年には、マイクロコンピュータの中心的な役割を担い始めていたアームの買収に、ついにこぎ着けることができたわけです。



冒頭に見ていただいたような 1970 年ごろのマイクロコンピュータには、ワンチップで小さなトランジスタが 2,250 個ぐらいしか載っていませんでした。2,000 個でも多いといえは多いのですが、当時は画期的な製品でした。

これが、現時点ではワンチップでなんと 100 億個。100 億個もトランジスタが載るような状況になってきました。CPU の演算処理能力は、トランジスタの数に比例するように、2 次曲線でどんどん力を増してきました。

それまでアイ・ビー・エムに代表されるような、部屋いっぱいぐらいの大きな大きなコンピュータが、指先に乗っかるチップになったわけです。しかも、それがどんどん能力を増して、現在では、ありとあらゆる電化製品に載っているという状況になったわけです。



チップ、CPUの世界で、圧倒的シェアを握っているのがアームです。これまでアームの累計出荷数は2,200億個に上ります。しかも、年間さらに250億個、毎年その数を2次曲線で増やし、出荷し続けているという状況です。

考えてみると、人類の起源にはいろいろな説がありますが、例えばホモサピエンスが地球上に生まれてから約20万年経つと言われていています。20万年でいったい何人が、この地球上に生まれたかという、累計で約1,100億人だと言われていています。1,100億人全員が2個ずつアームのチップを所有したとすると、その数に匹敵する数をアームは出荷している。すべての人類の倍、アームはCPUを出荷していることになるわけです。

今日現在、地球上には約70億人の人類がいますが、赤ちゃんからお年寄りまで、全世界の人類が1人あたり30個、アームを持っているという状況です。とにかくすごい数ですね。

今までCPUというとインテルやエイ・एम・ディなど、いくつか会社が思い起こされると思いますが、CPUの数では圧倒的に、アームがマーケットシェアを持っている状況ではないかと思えます。

2020年9月

NVIDIAへのArm売却を発表 (NVIDIAの筆頭株主へ)

その業界の宝のような会社を、われわれが6年前に買収したわけですが、去年、手放す必要に迫られた。新型コロナがちょうど2年近く前になりますかね。コロナがこれからどれぐらい、地球上に災難をもたらすか分からないという状況の中で、われわれは4.5兆円の資金化プログラムを発表し、半年で目標を達成しました。そのプログラムの一環として、アームを手放すことを泣く泣く決定したわけです。

でも、単純に手放したくはないので、売ったような、買ったようなということで、アームと急成長しているエヌビディアがくっつけば、チップの世界で圧倒的世界最強の会社ができ、まさに鬼に金棒という状況になる。その筆頭株主にわれわれはなるのだという願いで、アームをエヌビディアに売却することを決めて、契約して、発表したわけです。

エヌビディアの筆頭株主になるというのは、ありがたいポジションということで決定したわけですが、その後、GAF Aに代表されるような、IT業界の主要会社がこぞって猛反対。さらに、アメリカ政府もイギリス政府もEUの国々の政府も、これに猛反対という状況になったわけです。

通常、独禁法で合併を阻止するということと同じ業界内。例えば、車のエンジンを作っていると、エンジンを作っているA社とB社が合併すると、エンジンの業界の中のマーケットシェアが大きくなりすぎるといって、独禁法で止められるということなのですが、エヌビディアとアームはまったく違うものを作っているわけです。言ってみれば、エンジンとタイヤぐらい違うわけですね。

違う事業をやっている会社の合併を独禁法で阻止するというのは、独禁法ができてから初めてのケースで、独禁法を使って阻止するという方向で、各国政府が動き始めたわけです。

われわれも驚いたわけですが、なぜそれほど各国政府、あるいはGAFに代表されるような企業が、止めなきゃいけないかというと、IT業界、シリコンバレーのほとんどの企業がアームを直接的、あるいは間接的に活用している。欠かすことのできない最重要カンパニーの一つであるということで、大変な反対運動が起きたわけです。



そこで今日、先ほどアームの売却を中止することを、エヌビディアと合意しました。エヌビディア側からしても、合併は今でもしたいという気持ちは大変強くある。最後まで、その気持ちは大変強くあるという状況でした。しかし、これほど各国政府が、この合併を阻止するという強い動きに出たので、これ以上は、承認を得る努力をしても認められないだろうということで、合併を諦めるということで、合意に至ったわけです。

arm

Armの売却中止をNVIDIAと合意

Armは2022年度の上場を目指す

講演者: 1988年8月2日付「ARMのIPO」に関する記事の著者である。ARMは現在上場している。© 2022 Arm Limited. All rights reserved.

9

われわれとしてはプランBということになりますが、アームは2016年に買収しました。そして、2023年ぐらいに再上場すると、買収当時から実はコメントをしていました。買収して、一回プライベートイズ、非上場会社にしたわけですが、いろいろな先行投資をして、新しいアームの製品群を作って、準備が整ったところでもう一度再上場する。

その期限はだいたい2023年ぐらいだと買収した当初から言っていたわけですが、ちょうど時期も、その時期に達したと。2022年度というと来年の3月までですから、ちょうど2023年になります。つまり、当初から思っていたちょうどそのぐらいの期限で、アームを再上場させることで、もともとのプランに戻ろうということです。

エヌビディアとの合併ということ言えばプランBになりますが、もともとオリジナルの案ですから、われわれとしては、むしろこちらがプランAなのかもしれないということです。

arm



スマホ革命を牽引

10

ということで、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）などは、これまで発表した内容ですから、今日の決算発表の一番メインの話がこのアームの件になろうかと思います。

アームは今までスマホの革命を牽引してきました。世界中のスマホ、皆さんが持っているスマホのほとんど、99%ぐらい。もしかしたら100%かもしれませんが、そのぐらい圧倒的にアームのCPUが、世界中のほとんどのスマホで使われています。

arm



スマホ革命を牽引



あらゆる革命を牽引へ

(クラウド・自動車・IoT・メタバース等)

11

これまでスマホに使われていたアームが、自動車、クラウド、メタバース、IoT など、さまざまなものに使われるように進化してきたということです。

なぜ再登場すると、最初から言っていたかということ、新しいアームが CPU の設計に入って、最初の設計で 2 年から 3 年かかります。そして、ある程度設計ができてから、チップの製品が市場に出るまでに、さらに 2 年近くかかります。つまり、その製品を作るぞと決めてから 4~5 年かかって製品が世に出てくるわけですね。

われわれが買収してからすぐに、アームはスマホだけではない、ありとあらゆるものにこれから使われる。アームは小さくて、スマホのような持ち運び型、携帯型のものには向いているが、演算処理能力はインテルの CPU などには敵わないと、当時は言われていました。しかし、私は本当にそうかなと。

これからアームは、演算処理能力をどんどん増して行って、ありとあらゆるもの、特に、演算処理能力を大きく必要とするものにまで使われ始めると読んでいました。そこで、アームとしては、先行投資でエンジニアの数を倍増近くするぞと。新しい、アームの CPU 製品群をどんどん開発するという意思決定をしました。



ついにその製品群が、今年から続々と出てきます。やっと植えた種がこれから花をつけて、実を成す時期がついにやってきたと。第 2 の成長期に入るとということです。わくわくしています。大変うれしく思っています。

arm

半導体業界史上 最大の上場を目指す

資料出典: 1998年4月8日付「プレスリリース」(当証券会社及び「arm」証券化株式投資信託(以下「arm」)の募集に関するお知らせ) 13

ということで、結論を申し上げますが、アームは、半導体業界史上最大の上場を目指す準備に正式に入ることを決めましたので、そのことを今日、あわせて発表したいと思っています。

当期純利益

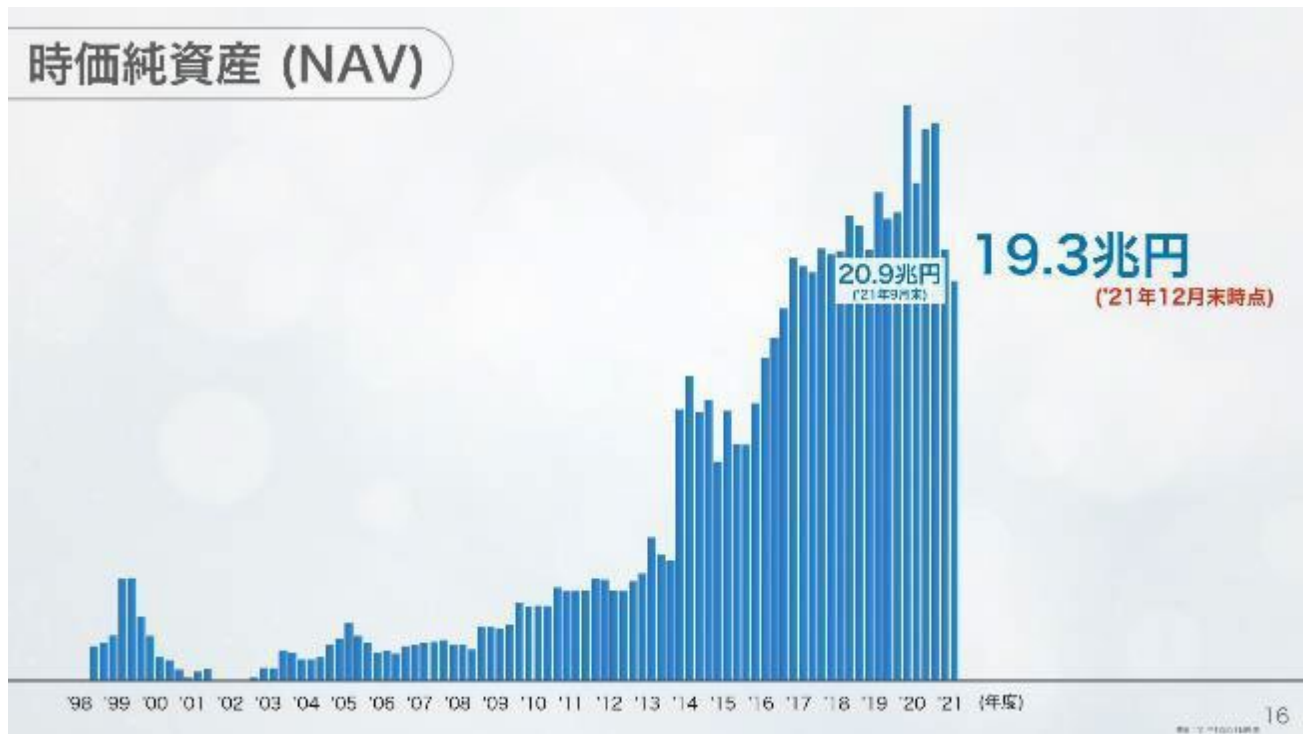


当期純利益: 親会社の所有者に帰属する純利益 15

これが今日の一番のハイライトですが、決算発表ですから、業績についても当然触れるべきですね。業績は前回の決算発表でも冬の嵐の真っ只中っていると申し上げました。嵐はまだ終わっていない、むしろ嵐は強まっているかもしれないという状況です。

米国をはじめとする、各国の政府がコロナのピークは過ぎてきただろうと、金融緩和を抑えて、長期金利がこれからどんどん上がっていくという状況で、特に成長企業の株価は今、冬の嵐の中にいます。多くの企業の株価がでこぼこにやられている。

特にわれわれが投資しているような、高成長企業の株価は今やられています。従って、去年の決算期が良すぎたのかもしれませんが、その反動も含めて大幅な減益です。



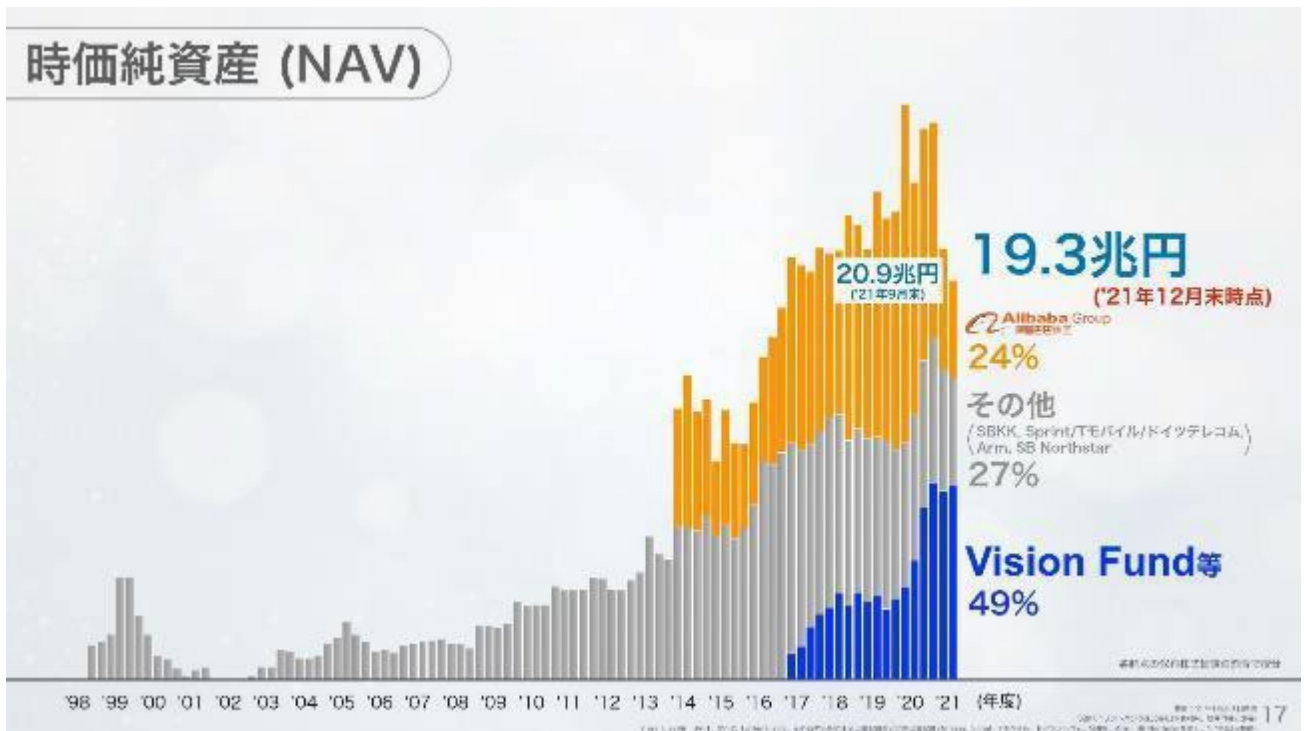
でも、会計上の利益以上に重要なのは、われわれの時価純資産、Net Asset Value（以下「NAV」）だと繰り返し申し上げています。AI革命の資本家を目指すソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）、平たく言うと投資会社にとっては、会計上の利益以上に持っている株式を中心とした資産価値が増えたのか、減ったのかが重要です。

例えば仮に、株式価値が100、純有利子負債が20あるとしたら、差し引くと80になります。これがわれわれの時価純資産です。時価純資産の80が60になったのか、120になったのか、この上がり下がりが重要だということです。

われわれ、ピークのところからすると何兆円も減っています。去年の9月期から、今日は12月期の発表ですが、3カ月でさらに減っています。1兆円近く減っています。純利益以上にこちらのほうが重要な問題で、私は冬の嵐の中にいると感じているわけです。

ただ、これを上場以来のグラフで見えていただくと、上がったたり下がったりしていますが、遠くから見ると、なんとなく右肩上がりであることはお分かりいただけると思います。誰が大統領になった

とか、金利が上がったとか、下がったとかでこぼこしますが、大きな流れでいくと、右肩上がりになっていっていると私は信じています。

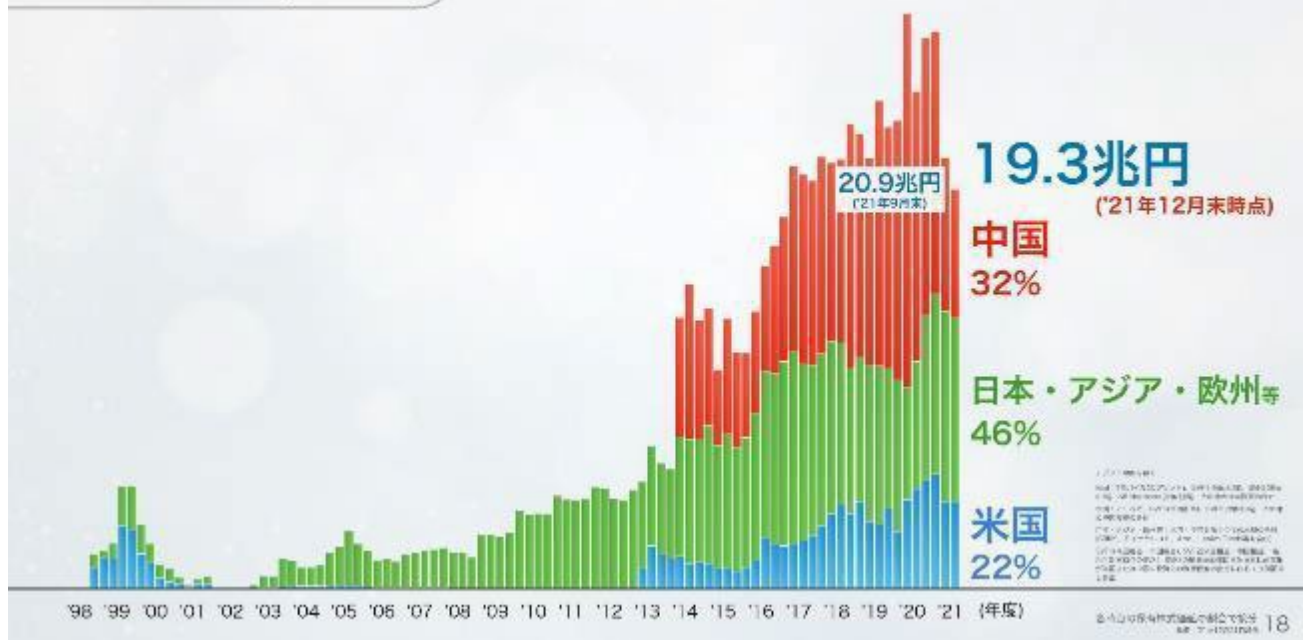


この内訳をもう少し見てみると、オレンジ色のところがアリババです。一番下のところがSVF等の価値ですね。真ん中が、その他になります。アームも、われわれとしてはその他に、位置づけています。

ざっくり、俯瞰してみれば、一貫して増え続けているのがSVF等で、その他はちょぼちょぼで、むしろ一番減っているのは、オレンジ色の部分。

ピークのところでは、われわれの時価純資産に占める割合として、6割ぐらいがアリババであった。現在は24%です。良いも悪いも24%。ですから、だんだんとアリババの株価がSBGの時価純資産に与える影響の比率は、小さくなってきている。しかし、この直近の3カ月で言えば、一番その価値を下げた原因はアリババの株価であったというのが、このグラフで見ていただければ、より分かるのではないかと思います。

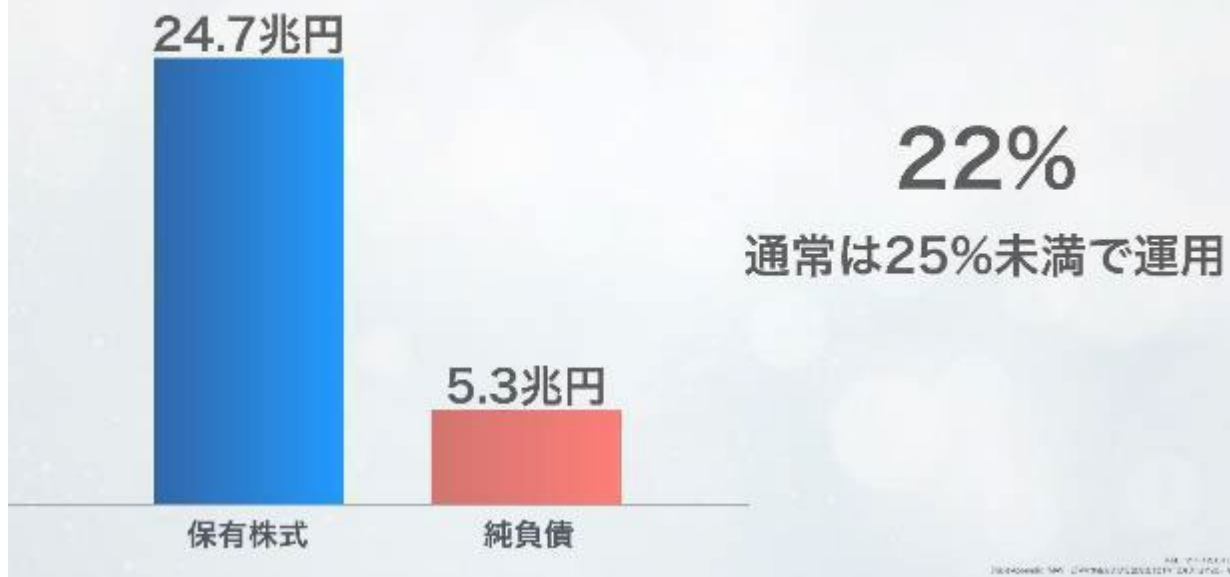
時価純資産 (NAV)



米中問題がいろいろとされています。アリババも中国なわけですが、アリババ以外にも、SVFで中国関連の銘柄に投資しています。例えば、滴滴。中国版ウーバーみたいな会社ですね。滴滴も投資してから大幅に価値を減らしました。われわれが保有している中国関連は、SBGの時価純資産の約32%という状況です。

米国は順調に伸びている。緑色のその他、日本・アジア・欧州も一応、順調だと。中国のところが一番価値を下げた。ピークのところから下がっている最大の理由は、中国銘柄ということになるかと思います。

LTV (純負債/保有株式)



さて、投資を中心に行っている SBG にとって、もう一つバランスを見なきゃいけない重要な指標が、Loan To Value (以下「LTV」) です。LTV は、先ほどの例で言えば 100 の株式価値に対して、純有利子負債が 20 あるとしたら、この比率は、20%ということになります。

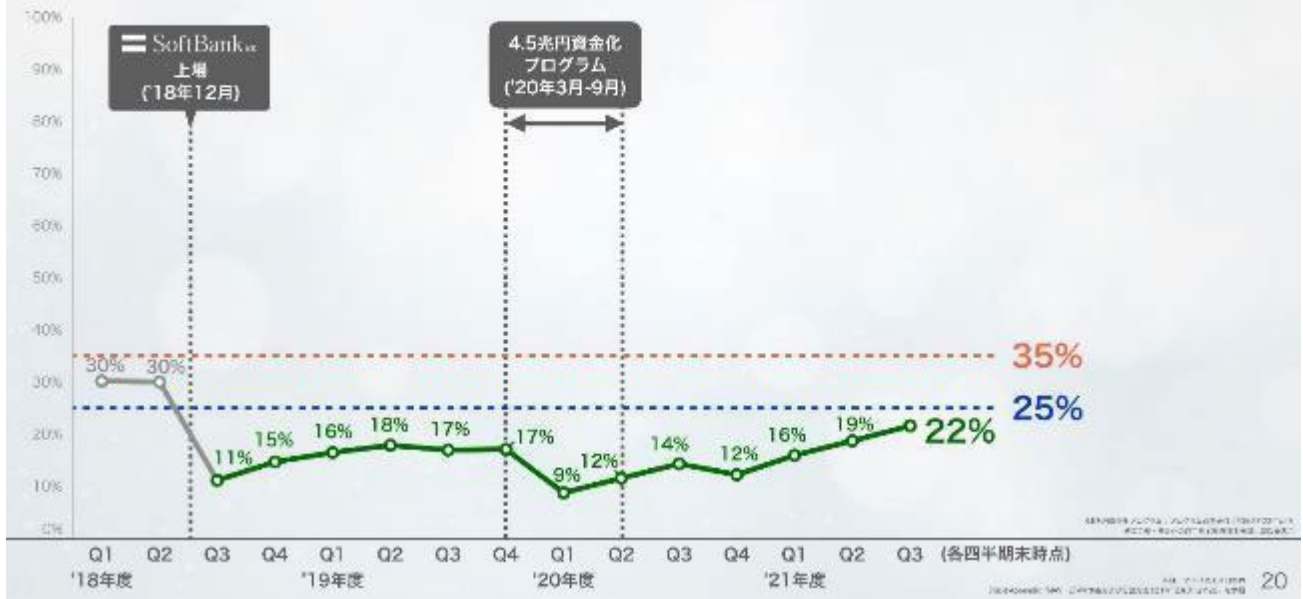
ブルーのところは、SBG が保有しているアリババだとか、SVF とか、その他の株式価値になります。SBG は、バランスシート、あるいは PL を見ても、価値を試算するのは難しいという方がときどきいますが、9 割近くが上場株で構成されていますので、計算しやすいわけです。

そこから、この赤色の部分、純有利子負債を差し引くと、先ほどから言っている時価純資産ですが、この赤を青で割る計算が LTV です。これがわれわれにとって重要な指標。

ですから、SBG として、僕自身がこの二つの指標を毎日 4 回チェックしている。NAV と LTV を見れば、SBG の価値は一目で分かるということです。SBG は複雑だというのは、まったく内容を理解していない人で、シンプルです。

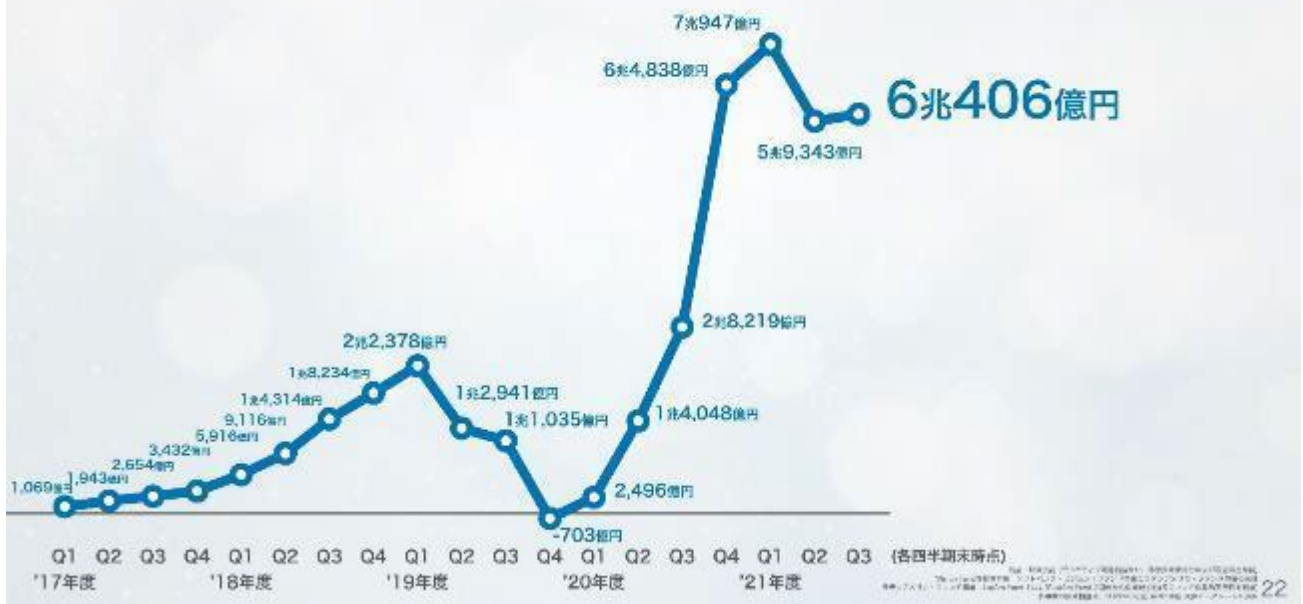
この二つだけ見ればいいわけですが、この赤い部分の比率をわれわれは平常時で、25%未満で運用するという財務規律の内規を持っています。

LTV (純負債/保有株式)



急に株式市場が暴落したなど異常時でも、純有利子負債は減らせませんから、この比率がリーマンショックのような異常時でも一時的に抱えるピークの、レッドラインは35%。35%は絶対超えないようにしようという指標を持っていますが、われわれはこの35%を十分下回る、平常時の目安である25%前後のラインをちゃんと守るようにして運用しているということです。

Vision Fund等 投資事業 損益 (累計)

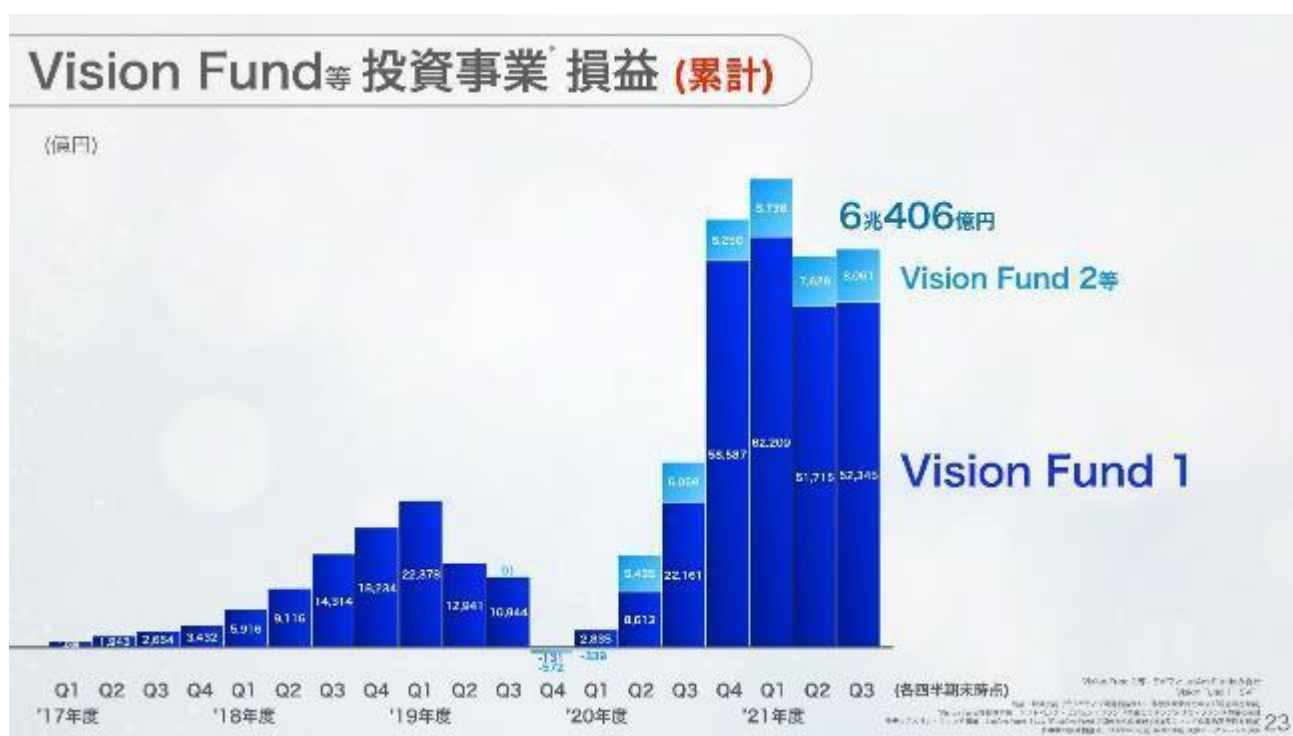


現在、SBG の中心はSVF ですが、SVF の成績についても触れたいと思います。

SVF の成績は、この 1 ページで理解できると。これは SVF 設立以来、累積で利益が出ているのか、減っているのかということです。ゼロのところの線を下回ると、投資した金額の元本を下回ったこととなります。このゼロの線よりも上にいれば利益が出ている。

例えば、100 投資して、120 になっていれば 20 は利益。その 20 の利益がどれだけ累積で出ているのか、出ていないのかというのが、このグラフで分かるということです。

ですから、3 カ月ごとに上がった、下がったも大事ですが、それ以上に大事なものは、全体を俯瞰して累計で利益が出ているのか、出ていないか。保有している株式価値は、投資したものに対して、損したのか、もうかっているのかということです。

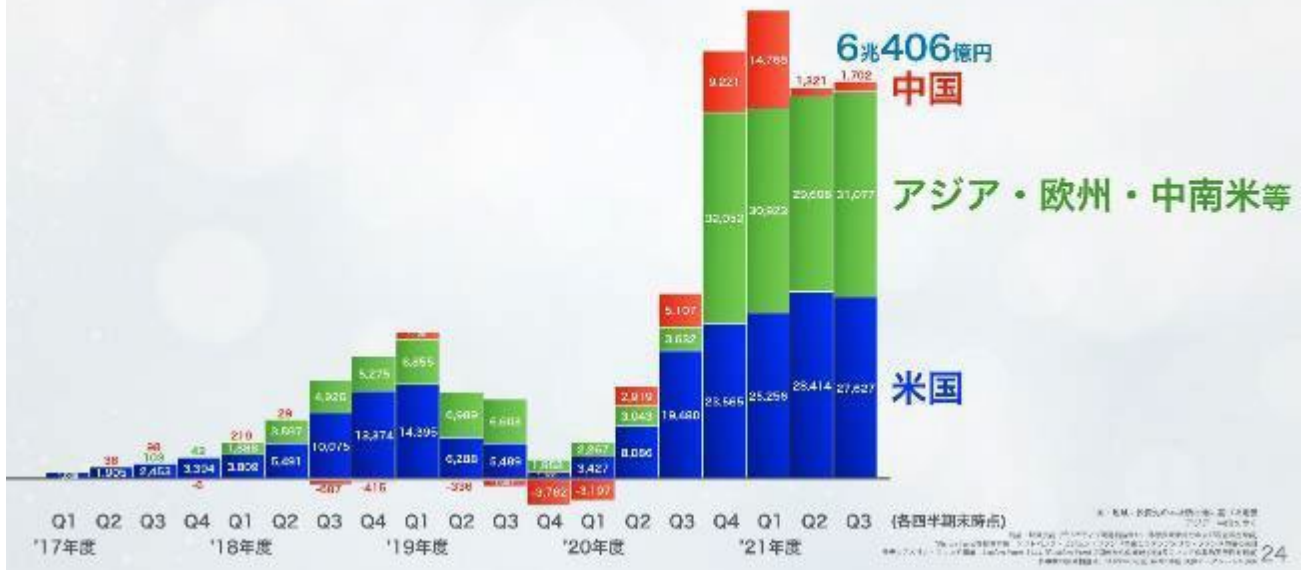


この内訳でいいますと、SVF が濃いブルーのところです。SVF1 のほうが先に始まりました。最初、利益が出始めるのに 3~4 年かかるわけですね。薄いブルーのところは、SVF2 です。

SVF1 は、もうすでに 4 年、5 年たってきていますので、利益が十分乗ってきている。2 年ほど前、ウィーク問題などがあったときに、一時マイナスに突入しました。そのときは皆さんに大変心配をおかけしたと思いますが、そこから利益をもう一度積み上げて、累積では 6 兆円近い利益を出しています。

Vision Fund等 投資事業 損益 (累計)

(億円)

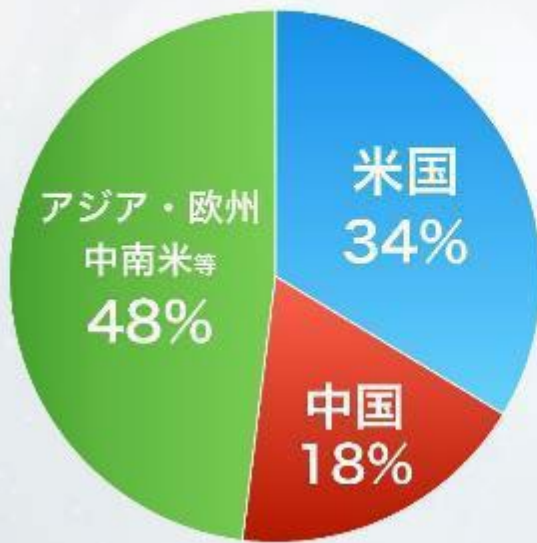


地域別に見ますと、下の濃いブルーが米国。真ん中の緑のところ、米国、中国以外。赤いところが、中国です。先ほどアリババ株が大変下がって、われわれの時価純資産を傷めていると申し上げましたが、SVFも同じように、中国銘柄で利益を傷めています。

ただ、傷めているとは言っても、損をしているのかというと、累計で損をしたとまで傷んでいるわけではない。元本に対して、中国銘柄ですら赤字ではなくて、一応、若干は利益が乗っている。ただ、中国銘柄については、今まで出た利益を吐き出してしまっている。それ以外のところは、順調に益を積み上げていっているというのがSVFの成績です。

Vision Fund等 投資先 時価

(’21年12月31日時点・売却済除く)



幅広い地域へ 資本を提供



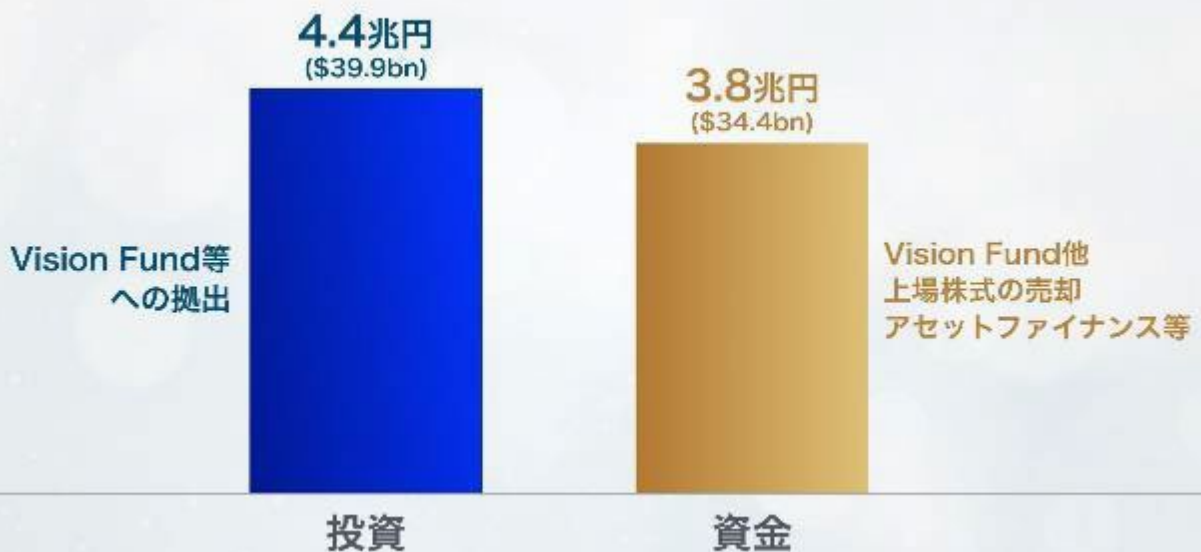
25

今まで、元本を投入してきた投資先の時価でいうと、米国がブルーのところ。中国が赤、緑がそれ以外。

赤い部分の中国は、利益がほとんどない状態ですから、元本とほぼ同じですね。緑と青い部分、米国とそれ以外のところは、十分利益が乗り、時価に洗い替えされたところの部分で構成されています。

投資資金 (’21年度Q1-Q3)

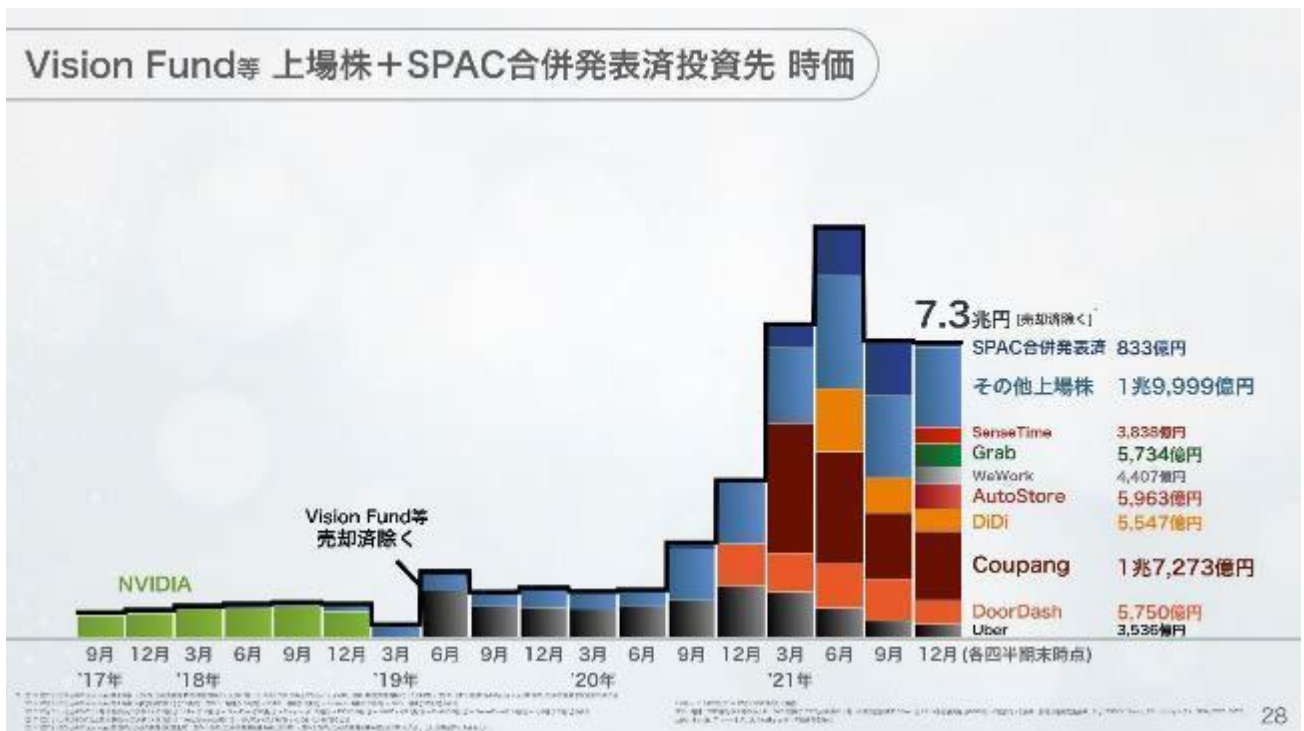
(9ヶ月累計)



27

この9カ月の間に、SVF2は約4.4兆円投資しています。この4.4兆円の財源はどこから来たのかということですが、そのうちの3.8兆円は、SVF、アリババあるいはその他、一部未上場の株も含めて、売却したところから調達している。

つまり、新しい投資をするのに自分が出した利益、あるいはその他のところから売って投資している。つまり、売りながら投資することで、エコシステムが回り始めているということ、このグラフは表しています。



では、どのくらい売って、どのくらい残っているかということですが、上場株に化けたSVFの保有株式を一部売って、今日現在まだ持っている上場株が、このくらい積み上がっているということです。

SVF1は10兆円ファンドということで、いろいろな投資家からお金を集めて、われわれの手金プラス外部の資金で投資をしました。それが一番左のブルーのところですね。SVF1で投資したのは94社でした。

ウィーワーク問題、ウーバー問題があったときに、SBGのSVFはうまくいかないのではないかと、大変不人気になりまして、外部の投資家が皆、逃げていってしまいました。外部の投資家から資金を集められないという状況に陥りましたが、手金でやるしかないねと、手金でやり始めた。

手金でやり始めてから投資したのが、このオレンジ色の部分と、右側のグリーンの部分。SVF2とソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド（以下「LatAmファンド」）を足すと、もう全体で441社になりました。約400社のうちの約100社がSVF1で、約300社はSVF2とLatAmファンドです。

ということで、SVFは継続して、今は手金のエコシステムで売りながら、さらに投資しながら、自らの資金で回転し始めている。



SVF2の投資は、2020年の途中から始まりました。2021年度は、SVF2になってからの状況ですが、この9カ月間で一気に240社近く、投資したことになります。

ベンチャーキャピタル年間投資額 ('21年)

(各投資家がリード投資家を務めた案件の調達総額)



世界 5,000 社ぐらいベンチャーキャピタルがありますが、この規模は、金額的に見て完全に世界最大のベンチャー投資家グループであるということです。

他のベンチャーキャピタルはこの金額を、いろいろな会社、いろいろなジャンルに投資しています。でも、SVF は AI を活用している会社だけに投資を行っています。ですから、AI 関連については、圧倒的世界最大の資本家グループであるというのが、SBG の状況と言えると思います。

IPO 新規上場 / 売却数

(社)



33

われわれが仕込んだ卵は続々と育ってきている。育って、上場する。上場する会社数が、どのくらいになっているかがこのグラフですが、SVFを開始して以来、2020年度まで毎年、一貫して上場していく社数が増えています。

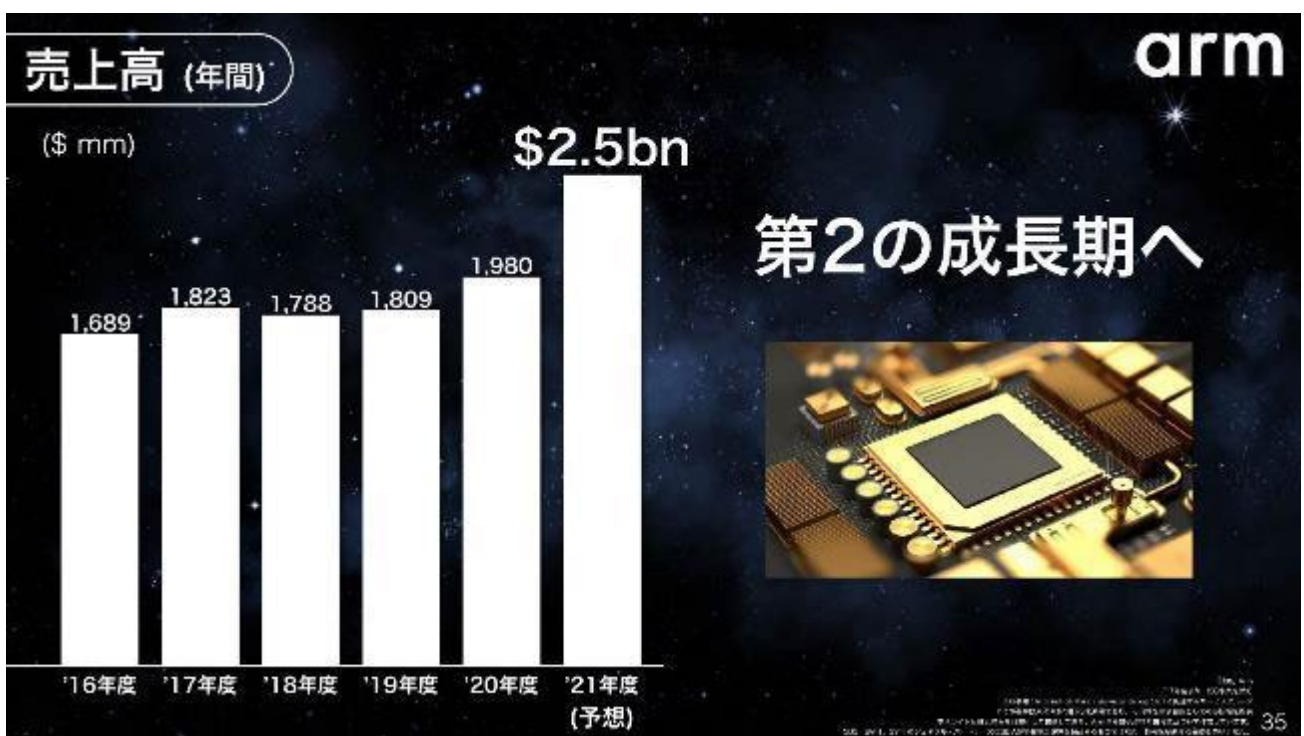
何年か前に、ガチョウと金の卵の図をプレゼンしましたが、金の卵、つまり上場する銘柄がどのくらい生まれてきているかという、続々と増えている状況です。

緑のところの棒だけは9カ月間の数です。ほかは全部12カ月です。2021年度は9カ月ですすでに25社まで来ているということですから、12カ月になると、この緑の部分はもう少し高くなるということですが。

社数が増えても、金額が増えなければ意味がないわけですが、一応、新規に上場する銘柄の大半は、利益を乗せながら上場してきている。ただ、特にこの9カ月間は、上場したあとに、世界中のハイテク銘柄の株価がやられていますので、その影響がSVFの上場後の株式価値にマイナスの影響を与えていることは、先ほどから申し上げている通りです。

従いまして、SBGの決算上は冬はまだ終わっていないと。嵐の真っ只の中に、いまだにありと、まだ続いているという状況です。ただ、僕は必ず春は来ると信じていますし、新たな種は続々と植え続けているし、新たな芽も、冬の嵐の中で続々と芽吹き始めてきている。春には完全になってないが、冬の嵐の中で、芽は着実に始めているというのが、僕の実感です。

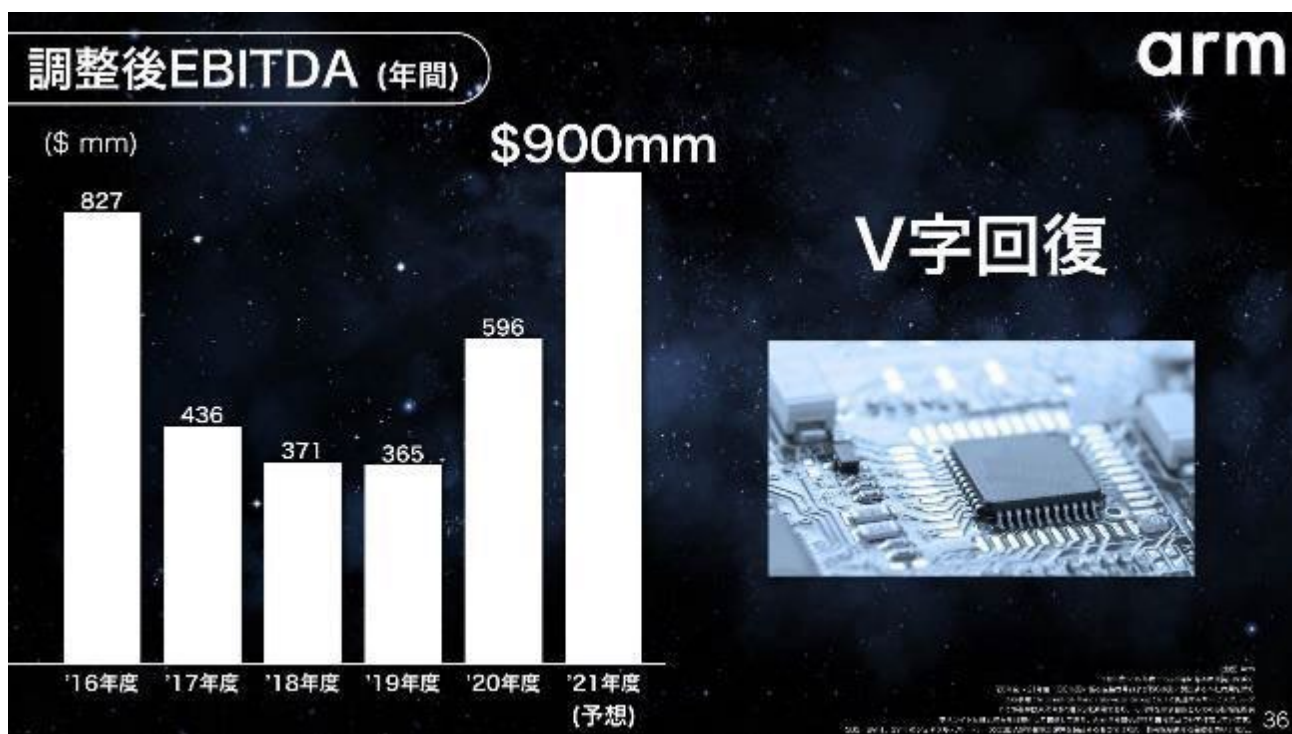
この辺までは、今までの決算発表のおそらく延長線として、すでになじみのある話だと思います。



今日のメインテーマは、冒頭で申し上げました、アームです。

アームが戻ってまいりました。戻ってきたというよりも、第2のアームの成長期がいよいよ始まるということです。

今までアームで仕込んでいた部分が、今から爆発的に伸びていくと考えています。その兆しははっきりと出ていました。これは売上のグラフです。われわれが買収したのが2016年ですが、2018年から4~5年間、売上がほぼ横ばいでした。これはもうスマホがある程度行き渡ったということで、横ばいであったということかもしれません。



しかし、この21年度から、もう一度、アームが伸び始める。第2の成長期、黄金期に、いよいよこれから入るということです。



第2の成長期に向けて、われわれは先ほど言いましたように、先行投資を行いました。アームにとっての先行投資とは何かというと、エンジニアの数をどんどん増やしました。従って、どんどん利益は減りました。先ほど言いましたように、売上がほぼ横ばいで、エンジニアの数を増やしたら当然、利益が減っていくということで、アームの利益はどんどん減りました。

しかし、ついに売上が伸び始めた。つまり、新たに仕込んでいた部分の製品が、この21年度ぐらいから続々と出始めたということで、いよいよこれから利益が爆発的に伸びていく。毎年伸びていくと私は思っていますが、アームの成長期、黄金期について今から入ると、最初から読んでいました。

だから、最初から2023年ぐらいに再上場するというのを、買収した第1日目から私は申し上げていたわけです。だいたい読み通りのペースでその他のチップ、CPUができてきたということで

先ほどから何度か申し上げていますが、エンジニアへの先行投資をして、毎年続々と増やしていった。これがアームの利益を下げた理由ですが、ついにアームのCPUがこれから続々と出てくるということです。

arm

演算処理能力

38

アームがなぜ素晴らしい会社だと、私は信じているかということです。アームには、優れた演算処理能力があります。そういと、いや、インテルのほうが演算処理能力が大きいのではないのかと一般の人々は思うかもしれません。インテルの同じ系列、技術系列であるエー・エム・ディーも同じですね。

arm

演算処理能力

×

低電力消費

39

アームは独自の進化を遂げてきました。電力を使わない、低電力消費という独自の命令セットで、まったく別システムの進化を遂げてきました。

電気をあまり使わないで演算処理能力をどんどん増やしていくためには、何をどうしたのかと。もちろん1個1個のCPUの能力を上げるということもそうなのですが、車のエンジンに例えると分かりやすいかもしれませんね。

ピストンの1本の容量、あるいはピストン1本の馬力を上げていく、これも大事なのですが、ピストンのシリンダーの数を1個ではなく、2個、4個、8個にする。4気筒や8気筒でエンジンは表されますが、車のエンジンにすると、4本のピストン、あるいは8本、16本。アームのCPUのコア、つまり、ピストンに相当する部分1個のコアからマルチコアに進化してきました。

今日現在のスマホには、アームのコアが12個とか入っています。これがどんどんこれから増えていく。1個から2個になり、4個になり、8個になり、12個まで増えてきています。

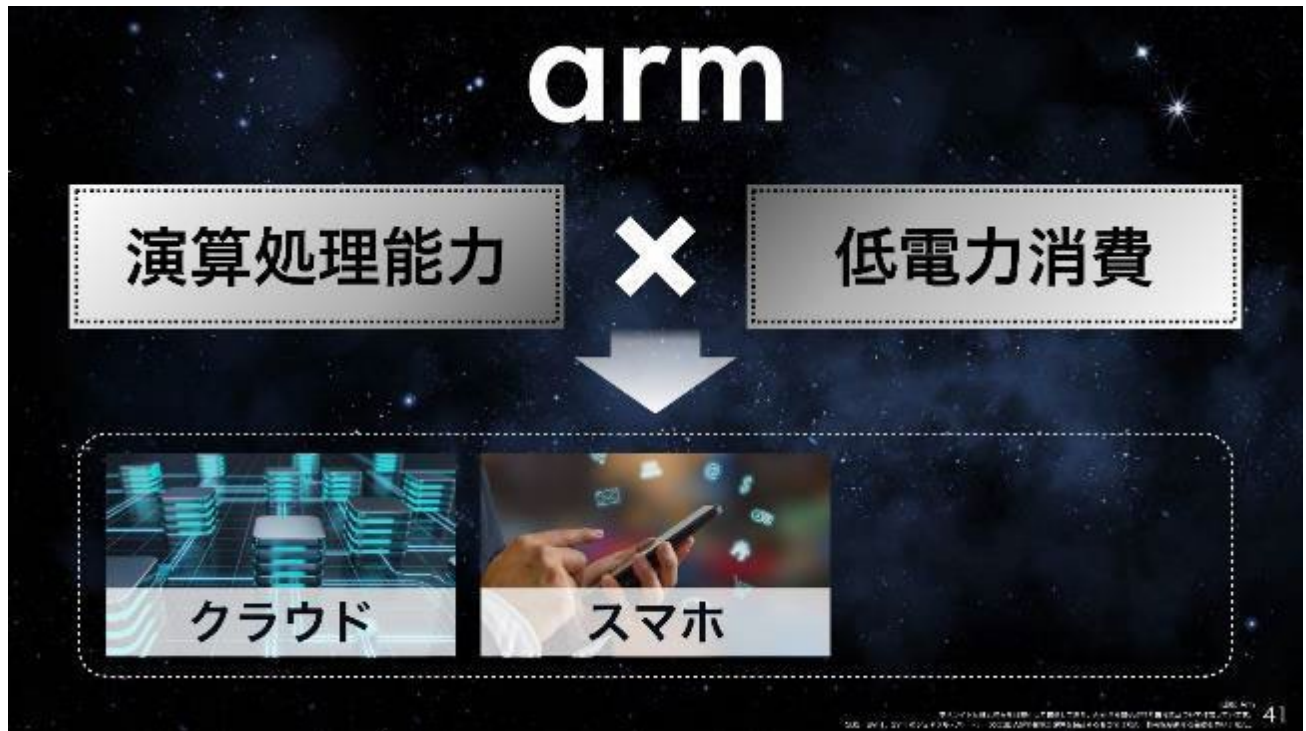
スマホ以外ですね。先ほどから言っています、他のものにもどんどん進化しています。



まず、このアームがなぜスマホで圧倒的シェアになったか。先ほども申し上げたように、スマホの世界のマーケットシェアの99%ぐらいは、アームになったわけですが、電池を食わない。

皆さん携帯電話を毎日使っていて、1日の途中で、電池が切れそうになって慌てて充電するということを経験したこと、何回もありますよね。僕自身も何回もありますが、1日の途中でスマホの電

池が切れたら、もうこれはその残りの1日が成り立たないというぐらい困りますよね。ですから、電池がもつことが、どれほどスマホにとって大事かという、ものすごく大事だということです。車のエンジンに例えると。4気筒、8気筒にするとガソリンをいっぱい食うわけです。車の所有者としては、馬力はいっぱいあるけどガソリンを2倍も4倍も食うということでは、困るわけです。アームがなぜスマホで圧倒的シェアになったかという、電池を食わず、演算処理能力をどんどん上げていくことができたことで、スマホでの競争で勝ったわけです。



同じ理屈が、実はクラウドでも起きました。

今、アームがクラウド用に出しているCPUは128個ぐらい。128個ぐらいのコアが1個のチップに入っている状況です。つまり、128気筒になるわけですね。スマホの10倍ぐらいコアが入っている。これが、近い将来には256コアとか、1024コアとかいう状況になっていく。1個のチップに1024気筒ぐらい、ばーっとシリンダーが並んだぐらいの状況。もう恐ろしいチップになる。

世界最強のスーパーコンピュータが富士通さんから出ていますね。あちらも全部アームを使っているわけです。つまり、アームのコアをすごい数、並列に並べると、スーパーコンピュータになる。

CPUの演算処理能力として、インテルの方が大きいのではないかというのは、1個のコア対1個のコアで言えば、インテルの方が出力は大きいかもしれませんが、電力を食わないので、アームはたくさんコアを1個のチップに入れられるわけです。

なおかつ、電気を食わないということで、高演算能力が最も必要とされているコンピューティングの中心であるクラウドでは、世界最大のクラウド事業者であるアマゾンが、ついにアームのアーキテクチャに移行することを決定しました。

なぜならば、クラウドだとかデータセンターの運用コストの6割は、電気代なのです。電気代はチップ代よりも高い。その電気がアームにすると4割とか6割少なくて済むのです。

アームだから減らせるということであれば、当然クラウド事業者ナンバーワンのアマゾンは、アームのアーキテクチャに目をつけて、どんどん切り替えるという意思決定をしました。ナンバーワンのアマゾンがそうすると、当然それに対抗するマイクロソフト、グーグル、フェイスブック、アリババ。世界中のクラウドのトップ事業者が続々とアームアーキテクチャに切り替えるという意思決定を発表してきました。

われわれが仕込んでいた、スマホ以外の成功のための種が、ついに開いてきたのが、この21年度です。



さらに、電気自動車、EVは、4割ぐらいのコストが電池代なのです。電池を食わないで走行距離を倍、3倍に伸ばす。そのためには電池を食わないコンピューティング環境が、最も重要なテーマになります。いくらスピードが出せるといっても、スピード違反するほど出せないわけですから、スピードは、スピード違反をしない範囲で打ち止め、走行距離をいかに伸ばすか。同じ電池の容量で走行距離を伸ばすこれがEVにおけるエンジン競争になっていくわけです。

EVの世界において、一番電力を食うのがコンピューティングパワーなのです。これからどんどんと自動運転の世界が来ます。そうすると、間違いなくアームアーキテクチャでないと、電池を食いすぎて話にならないということです。

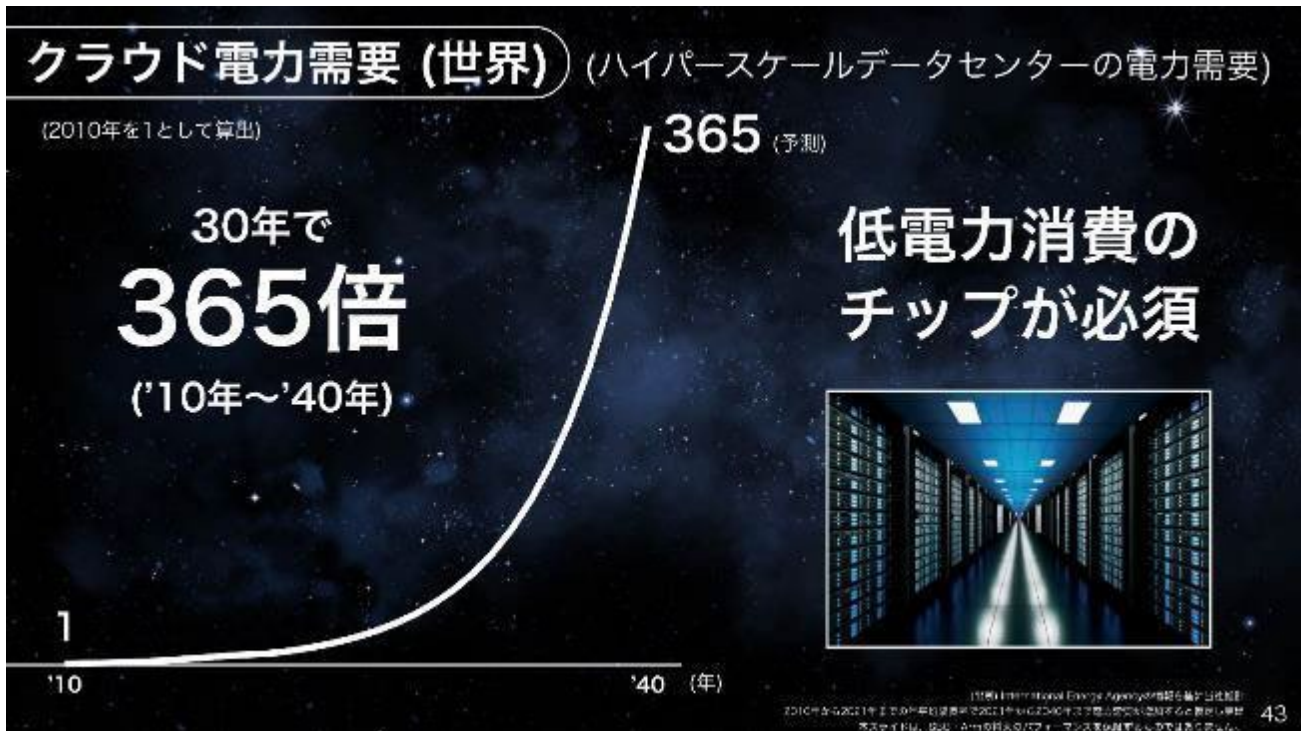
つまり、スマホで成功したアームの原理原則の強みは、クラウドでも完全に証明された。電気自動車、EVの世界でもこれから必ずそうなる。この2大分野でアームが席卷していく。

今話したように、128コアとか、256コアとか、1024とか、これからどんどんアームのワンチップの中に入っているコア数が増えていくことで、電気を使わないで演算能力をどんどん伸ばしていく。

なぜそれほど大事かということですが、皆さんビットコインの話、知っていますね。ビットコインには、いろいろメリットがあるのですが、重要なデメリットの一つとして、ビットコインの数を増やしていくときにマイニングしなければいけない。マイニングするのに膨大な電気代が要る。

この電気代が去年ついに、スウェーデン1国が年間消費する電力量を超えてしまったというような報道がありました。

それもビットコインたった一つだけで。ビットコイン以外にもいろいろな暗号資産がありますし、それ以外にも今からメタバースや、いろいろなコンピューティングパワーが続々と増えるわけです。



クラウドの消費電力がどれほどになるのか。30年で365倍と。2010年から、今10年間ぐらいたっているわけですが、今から20年間でさらに増える。

自動運転するにも、クラウドコンピューティングでいっぱい、コンピューティングするわけですし、クラウドの使う電力需要はどんどん増えるわけです。これ、アームアーキテクチャじゃないと世界中、もう石炭だなんだというのは当然、使えないわけですし、これから電力発電のために、自然エネルギーに変えていかなきゃいけないのですが、もう地球全体に太陽光パネルを設置しても足りないぐらいになるのではないかというぐらい、必要とされる電力容量が増えていくということです。

インテルのアーキテクチャではもう無理になるわけです。少なくとも、現在はもうアームアーキテクチャしか無理となるわけで、スマホでアームが席巻したように、クラウドも今から、どんどんドミノ倒しでアームにひっくり返っていくということです。



EVの世界も、なんと24年間で350倍ということです。今、テスラに代表されるようなEVがどんどん出てきていますが、世界中の自動車がこれから全部EVに、どんどん切り替わっていく。EVに切り替わったときに、ガソリンの代わりに電気を使うわけです。

電気は車の中で発電しているわけじゃないわけです。電気は電力会社が発電するわけです。発電した電力会社の電力は、クラウドとかEVにどんどん今から使われていくわけですね。これまたEVの世界もアームアーキテクチャでないと無理になるわけです。

ということで、スマホだけではなくて、クラウドも、EVも、全部アームアーキテクチャに切り替わっていくと。



まさに、これからアームの第2の成長期に突入する。この絶好のタイミングで、われわれはアームをもう一度上場させたいと。

私としては、エヌビディアとのディールは成立してほしかったと思っていますが、こちらも悪くないね。もしかしたら、振り返ってみると、こっちのほうが良かったと、これから思うようになるのではないかと、実は心の中では思っています。アームのゴールデンタイム、黄金期が今からやってくるということです。

新経営体制

arm



成長戦略を加速へ

Rene HaasはアームのCEOに就任し、Inder SinghはアームのCFOに就任しています。46

それに向けて、経営を刷新したいと思っています。若返りを図り、アームの第2の成長期、黄金期に向けて、経営陣をより攻撃的で、エネルギッシュなかたちに切り替えていきたい。

今までCEOをしていたサイモンは、素晴らしい人物で、これまでの成長に大変貢献してくれましたが、サイモン自身が次の成長期に向けて、推薦したいベストな人間はレネ・ハース（以下「レネ」）だと。私自身も何回もミーティングをして、レネ以外にはありえないということで、レネをCEOに任命することを今日、先ほど決定しました。

そして、レネを支える相棒として、CFO、インダー・シング（以下「インダー」）に二人三脚で、この新生アームを引っ張ってもらいたい、成長を加速してもらいたいと考えています。

では、ここでレネとインダーに、ちょっとつなぎたいと思います。

レネ・ハース：孫社長、ありがとうございます。皆さま、おはようございます。今日はアームについてお話できることを、非常にうれしく思います。これから少しお時間を頂戴して、私とインダーから私どもがアームの将来に、非常にエキサイトしている理由についてお話できればと思います。



**Armは
世界中のソフトウェアの
発展の根幹を担う**

- ・ 1,500万人以上の開発者
- ・ 1,000万以上のアプリケーション
- ・ 業界最大のソフトウェアエコシステム
- ・ 主要OSサポート: Android・iOS・Linux・Windows・FreeRTOS・他

ARMは、ARMの登録商標です。AndroidはGoogleの登録商標です。iOSはAppleの登録商標です。LinuxはLinus Torvaldsの登録商標です。WindowsはMicrosoftの登録商標です。FreeRTOSはFreeRTOS Groupの登録商標です。© 2018 ARM Limited. All rights reserved.

孫社長がおっしゃったように、どうしてアームが世界で最も重要なコンピュータアーキテクチャと考えるかをお話しします。まずはソフトウェアです。

アームには、どんなアーキテクチャを作る会社よりも多くの開発者がいます。1,000万以上のアプリケーションに対して1,500万人以上の開発者がいます。そして、主要なOSをすべてサポートしています。Android、iOS、Linux、Windows、FreeRTOS。また世界最大のソフトウェアのエコシステムを持っています。



将来、スマートフォンからデータセンター、そして、自動車に広がっていく。それから、IoT、メタバースに移行していくにあたって、ソフトウェアのインフラは非常に重要になります。

少し歴史を振り返りますと、アームがSBGに買収されたのは、2016年ですね。当時、スマートフォンのビジネスは強力でした。しかし、インフラ、クラウド、それから自動車のビジネスは成長し始めたばかりでした。われわれのパートナーは誰だったかという、インフラ、それから自動車のところはプログラムを始めたばかりでした。



この5年間でSBGとともに、インフラと自動車のマーケットにおけるポジションを成長させてきました。

モバイルのところでは引き続き、強いマーケットシェアを維持していますが、自動車、データセンター、ハイパースケーラーのインフラでもここにロゴがあるようにブロードコム、マイクロチップ・テクノロジー、ボッシュ、ルネサス エレクトロニクス、テキサス・インスツルメンツ、もちろんエヌビディアなどの新しい企業ともパートナーになることで、マーケットを拡大してきました。

arm

	'16年まで	'16年~'21年	'22年以降
モバイル (スマホ・ノートPC)	HISILICON SAMSUNG MEDIATEK Qualcomm	HISILICON SAMSUNG MEDIATEK Qualcomm	紫光展锐 SAMSUNG MEDiatek Qualcomm
インフラ	CAVIUM MARVELL CALXEDA	MARVELL HISILICON AMPERE aws XILINX FUJITSU ARCELIKON	MARVELL Alibaba Group aws MegaChips NVIDIA FUJITSU XILINX NP
自動車	NP RENESAS CYPRESS	AMTECH NP XILINX RENEASAS BOSCH NVIDIA Telechips	Qualcomm SAMSUNG ST XILINX DENSO NP RENESAS BOSCH Telechips

マーケットを拡大

50

今後もこれらの分野で、さらに拡大していけると思っています。繰り返しになりますが、スマートフォンでは強いマーケットポジションを維持していますが、今後はデータセンター、それから自動車を成長させていきたいと思っています。

**この先の革命にも
スマホ革命を牽引した
3つの力が必要**

- ・ 効率的な演算処理
- ・ アプリケーションエコシステム
- ・ ソフトウェア基盤

スマホ革命



↓

データセンター革命



↓

自動車革命



51

先ほどの孫社長のプレゼンで少し紹介がありましたが、将来のデータセンターと電気自動車には、スマートフォンと同じような特性があります。強いソフトウェアのエコシステムが必要というところが同じですし、エネルギーの効率がよくなければならないという点も類似しています。

また、特に重要なのが、われわれはすでに実績を残していることです。実際にスマートフォンでのこれまでの経験が基礎となって、データセンターや自動車等に展開ができるようになります。われわれとしては、すでにやり方は分かっている。計算式を分かっているということで、この方向性でわれわれが牽引できると考えていますし、アームは非常に良いポジションを取れていると考えています。

AWSとArmが業界を革新
(AWS Graviton プロセッサファミリー)

Graviton3
(21年12月発表)

Graviton2 (Armベース)
40%コストパフォーマンスを向上
(同世代のx86インスタンスと比較)

AWS EC2の利用顧客 上位50社のうち48社が
Graviton2インスタンスを利用

Graviton3 処理速度 最大25%向上
(Graviton2と比較)

52

実際にこれまでの成長の軌跡の中で、ハイライトできるものの一つはAWSだと思います。AWSは、数年前に、グラビトンというものを発表しています。こちらはAWSで構築され、彼らのEC2やクラウドで使用されました。第2世代のグラビトン2は、実際にプライスパフォーマンス、コストパフォーマンスが40%向上しています。こちらは非常に重要だと考えています。データセンターでは、固定の予算、固定費用が重要である。ですから、このエリアでパフォーマンスを最大化できる。ただし、価格では諦めないということが非常に重要であり、これをグラビトン2で成果を出せたと考えています。

また、お客さまの動きはどうだったかという、EC2の利用顧客上位50社のうち48社が実際にはグラビトン2を使っているという結果です。これは、パフォーマンスだけでなくお客さまが実際に使っているという結果です。

また昨年末、AWS がグラビトン 3 を発表しまして、こちらは実際に処理速度が最大で 25%向上している。グラビトン 2 との比較となりますが、われわれにとって AWS は、非常に重要な、成功の証跡となってきていると言えます。

ソフトウェア定義型自動車を変革 arm

デジタル操縦席・IVI・ダッシュボード

- Qualcomm
- Samsung
- Renesas
- NXP
- NVIDIA
- MediaTek
- SemiDrive
- TI
- SiEngine

車体・フレーム・動力装置

- NXP
- TI
- ST Micro
- Infineon
- Elmos
- Microchip

自動運転向け支援システム

- MobilEye
- Renesas
- NVIDIA
- Qualcomm
- NXP
- Xilinx
- Horizon Robotics
- SemiDrive
- TI
- Ambarella

ゲートウェイ・テレマティクス

- Renesas
- Qualcomm
- NXP
- Samsung
- MediaTek
- TI

Armベースチップが業界標準に

53

もう一つのエリアとして重要なのが、自動車のエリアです。自動車はさらにコンピュータが増えていっており、タイヤにコンピュータが載っていると言っても過言ではないと思いますが、これは今後さらに電気自動車に移行していくと。そして、運転支援などもしていくということでここはアームにとっても非常に重要で、大事な主戦場になっていくと思っています。

例えば、車体・フレーム、テレマティクス、自動運転の支援、それからデジタル操縦席。こういった四つの重要なエリアで、すでにアームを使っていますし、また、システム・オン・チップということでアームを使っています。

これは今の車の中でも、業界標準になっていくと考えています。ものによっては1台の車に30、40というアームチップを使っている状況になり、さらに将来的には成長していくと考えています。

そういった意味では、電力消費効率が良い、アームのソリューションは非常に素晴らしいソリューションになると考えています。

ここからは、インダーにも少しお話をさせていただきたいと思っています。インダー、どうぞ。

グローバルモバイル市場のリーダー
自動車・インフラをはじめ巨大な成長市場でシェアを拡大

売上高 前年比26%増 ('21年度予想)
調整後EBITDA 2.5倍 ('19年度→'21年度予想)

高い収益性とキャッシュ創出力
強靱で負債のないバランスシート

壮大な成長戦略とともに新Armを始動

インダー・シング：ありがとうございます。今日このような機会をいただきありがとうございます。皆さま、初めまして。私も今日、このようなかたちでアームの第2章についてお話ができることを、非常にうれしく思っています。

非常に素晴らしく、堅固なビジネスモデルで成長できていると考えています。今後も投資を続け、私もここ数年間、アームの強さについて再認識をし、また商品のラインナップについても非常に堅調であると考えています。

これまで実際に、2020年から5年計画を立てていまして、それがすべて目標を超えて達成できている状況です。このスライドともう1枚で、われわれの状況についてご説明できるかと思えます。

まず、その1枚目、一つの箱。われわれアームが実際に、スマートフォンに関しては本当の意味での、市場のリーダーであると考えています。今お持ちであるスマートフォンは100%間違いなくアームのCPUを使っていると、言っても過言ではないと私は思っています。

また21年度、今日現在までの中で、われわれの携帯セグメントは売上高29%増で、またすべてのアームを使っている携帯セグメントに関しては、スマホであったり、それからノートパソコンでも非常に増加をしている。こういったものが5Gに今後移行していく中で、まさにこのタイミングで新しいバージョン9のアーキテクチャを発表しています。

ですから、このトレンドの中で、AIの今後の可能性が伸びていく。つまり、アームのコンテンツ、それぞれのデバイスの中のアームというのがさらに増えていき、それがさらに売上につながる

と考えています。ここ2年間、実際にわれわれは準備をしまいいりまして、これがさらに結果として出てくると考えています。

また、先ほど孫社長、レネからもお話がありましたが、データセンターであったり、自動車のエリアでもシェアをさらに伸ばしています。自動車のエリアの中では、より車がEV、AVというかたちでスマートになっていく中で、さらにコンピュータパワー、演算能力が必要となってきます。その中で、今年度の9カ月で、すでに自動車の中でのシェアを広げ、前年対比で139%増加をしていると言えると思います。

実際に、この成長は、われわれが今後も投資を続ける中でさらに増えていくと考えていますし、これから数年間にわたって継続できると考えています。

また、孫社長から先ほどお話があった、インフラビジネスも非常に重要です。例えば、サーバーはアームアーキテクチャが、非常に重要性が高いところでもありますし、またインフラセクターについては、売上がここまで65%も成長している。これだけの今、勢いがある中で、新しいマーケット、新しい商品。今年度後半、これから先、残りの数カ月の中で、われわれとしては売上が前年対比で26%増加するであろうと、見えています。

結果として、われわれの戦略は間違っておらず、正しい売上と利益が導いていると考えています。26%増の売上、それから売上高を増加させることができるということで、非常に堅調な成長をしながら、いくつかの商品ラインナップの中で優先順位を付け、より投資収益率の高いものの優先順位を高くしていく。孫社長からのご指導もあり、V字型改善などを達成することが可能となっています。

また、われわれの事業を見ていただきますと収益性が非常に高いことも、お分かりいただけると思います。バランスシートに関しても非常に強く、売上総利益率も95%以上と、必要な力を次の投資に回していくことができると考えています。

そういった中で、さらに投資を続ける自信もあります。そして、事業を成長させる自信もあり、新しい世界に進んでいくことができると思っています。これにより、これまで通りでもありますが、さらに事業を加速させていくことができると思います。

最後の箱になりますが、こちらも非常に重要で、新アームを始動したい。新しい経営陣として非常に大胆に、将来に向けて攻めていきたい。大胆な戦略を持って、自信を持って続けていきたいと考えています。



arm

半導体業界史上 最大の上場を目指す

講演者、1998年9月2日付「プレスリリース」「半導体企業として初のIPOを目指して上場準備に着手」を参照 55

そのためには、次のスライドとなりますが、非常に重要な IPO ストーリーを、お話していきたいと思えます。孫社長からもお話がありました。

現在、半導体業界史上最大の上場を目指す準備をしていきたいと考えています。会社としていくつかのプロジェクトもスタートし、上場企業となるための準備をしてきていますし、財務的なプロセスであったり、人材の登用であったりといった準備も進めています。

もちろん、この数カ月のうちにやらなければいけないことは、まだまだあると思えますが、IPO を 22 年度内ということと考えたときには、戦略的にも自信がありますし、また非常に成功できる IPO を迎えることができると考えています。

私からは以上です。孫社長、どうぞ。ありがとうございます。

孫：レネ、インダー、ありがとうございます。本当にありがとう。

以上が、今日用意してきた決算発表です。AI 革命の資本家になるという理念のもと、われわれが第 2 の SBG の成長に向けてやっていますが、この鍵になる会社がアームになると、私は思っています。

このアームがわれわれに戻ってきたと。しかも、これから黄金期を迎えるということで、われわれは 2 年前と違って、財務の状況も非常に良好な内容にあるということで自信を持っていますので、これから非常に、この成長を楽しみにしているということです。